

## 第 206 回 暮らしの SDGs 学習会 議事録

1. **出席者** (敬称略) 増永、吉永、横田、大塚、小川、前崎、筒井 (記)
2. **日時** 2025 年 1 月 16 日 (金) 13:30 ~ 15:00
3. **場所** 生涯学習センター 3 階 大会議室
4. **テーマ** 北海道北斗市のバイオマス (木質系) 発電について
5. **講師** 山崎克美氏 (元京葉ガスエナジーソリューション (以下 KGES) 社長)
6. **内容**

最初に学習会担当の筒井から、山崎氏は、京葉ガスの子会社 2 社の社長を務められ、退任されてから社長を務められていた KGES のバイオマス発電所の運転・維持管理の責任者として活躍されたとの紹介を行い、その後、山崎氏から以下のような説明がなされた。

  - \* KGES は、京葉ガスがプラントで製造したガスを都市ガスとして供給していた時代に、プラントの維持管理を中心にガス施設等の設計・建設・維持管理の事業を行ってきたが、都市ガスが LNG 主体となりプラントが減少したことから再生可能エネルギー関係の事業を拡大し成長してきている。
  - \* 具体的には、太陽光、小水力、バイオマス等の発電事業を行っており、今回説明する北海道北斗市のバイオマス発電もその一つである。
  - \* バイオマス発電は、生ゴミ等の廃棄物を利用する発電と間伐材等の木質系燃料を利用する発電があり、北斗市の発電は木質系燃料を使用している。
  - \* 経済産業省が作成した第 7 次エネルギー基本計画原案の中で、2040 年度には再生可能エネルギーによる発電量を全体の 4~5 割程度にするとなっているが、バイオマス発電では燃料として使用する木質系チップの調達に難があり、国全体でみて稼働率が悪くなっている状況がある。
  - \* 北斗市の発電所は、(詳細は資料にあるが) 2020 年操業開始で出力は 1990Kw、システムは単純で木質系チップの燃焼で蒸気を作り、タービンを回して発電する。但しチップの乾燥度合いや材質等によって燃焼温度に変化があり、慎重な運転が必要である。運転には、現地で 17 名を雇用し交代勤務で基本的には 24 時間運転を行っている。
  - \* 発電した電力は、認定を受けて固定価格で販売することが可能で 40 円/Kwh (税抜き: 期間 20 年) となっている。
  - \* なお、廃棄されたり、森林に放置されたりする木質系材料を購入、燃料に使用することで森林の保護等に寄与し、温暖化防止に役立つと考えている。

### <次回予定>

- 日時** : 2025 年 2 月 14 日 (金) 13:30 ~ 15:00  
**場所** : 生涯学習センター 3 階会議室  
**内容** : 日本は 2050 年カーボンニュートラルを実現できるか? (討論会)  
**司会** : 筒井義憲 (SDG s 学習会担当)